

今回は、電力需給バランスを調整するための仕組み「DR（ダイヤモンド・リスポンス）」について詳しく善さんに聞いていきます。

Q EV社会に対応し、リフォーム業界最後に残されたブルーオーシャンエネルギーリフォームで抜きこむためには、「DR（ダイヤモンド・リスポンス）」、「VPP（バーチャルパワープラント）」、「FIP制度」を理解することが必須とのことですが、DRについて教えてください。

A デイモンドリスポンス（DR）とは、消費者が賢く電力使用量を制御することで、電力需給バランスを調整する仕組みです。聞きなれない言葉だと思いますが、経済産業省資源エネルギー庁のホームページにも紹介されています。

電気は「貯蔵できない」という性質を持つため、「同時同量の原則」という、電気をつくる量（供給）と電気の消費量（需要）が、同じ時に同じ量になって常に一致してないと、電気の品質（周波数）が乱れてしまい、電気の供給を正常に行うことができなくなってしまう。

仮に発電所の需給バランスが狂い、一度停止（ブラックアウト）してしまえばかなりの費用がかかります。そのため、電力が逼迫して足りない時に、節電で消費電力を抑えたり、電気を使ってほしい時に大量の消費を促すといった供給状況に応じて賢く消費パターンを変化させる必要があるのです。

す。

特に太陽光発電が発電できない熱帯夜の夜や寒い夜の冷暖房電力が上がる時にDRが発令されます。私が推奨している太陽光で電気を創り、大量の電力を貯蔵できる蓄電住宅（スマートハウス）に住む人は節電のストレスもなく、蓄えた電気で普段通りの生活ができます。

また電気を使ってほしい時には、蓄電池やEV車に充電することで、大量の電気を消費するので電力会社は停止を回避できます。

電力会社は、節電（下げDR）や大量に消費（上げDR）を要請した時に、消費者が協力したお礼としてインセンティブを支払ってくれます。

スマートハウスであれば逼迫時でも大量消費が必要な時でも思わぬ収入が舞い込んでくるのです。

電気を電力会社から買うだけの家より、蓄電された電気で電力会社の救済にも役立ち、恩恵も受けられる家とどちらを選びますか。



Essee E
社長 加藤善一

独自の技術によるスマートハウス「Smart2030零和の家®」を全国の工務店に波及する。2021年絆ジャパンとの提携により参画企業も150社を超える。新築のみならず既存住宅のスマートハウス化を訴求している。

インセンティブのもらえる賢い暮らし方!?